

対話会イン関東複数大 2019 実施報告書

ー 日本原燃六ヶ所施設の学生見学会を兼ねるー

(報告者 矢野隆)

日本原子力文化財団の進める「地層処分事業についての更なる理解推進活動」の一環で 2019 年 12 月 7 日と 8 日、関東複数大学生主体の日本原燃六ヶ所施設見学会が開催された。現物を知り、そこで対話を行えば活発な議論ができ、参加学生の見識がより深まるとの考えから、SNW シニアがそれに同行した。7 日には事前学習会を兼ねる対話会#1 と懇親会を行い、8 日には施設見学会と意見交換会を兼ねる対話会#2 を行なった。



1. 日時と場所： 令和 1 年 12 月 7 日(土)～8 日(日)、青森県六ヶ所村等
 - (1) 対話会#1(事前学習会を兼ねる) 12 月 7 日 15 時～18 時
 - ・青森原燃テクノロジーセンター(テクセン)第3研修室
 - ・その後、テクセン食堂にて対話会#1 のグループ報告を含む懇親会を開催
 - (2) 日本原燃六ヶ所施設 学生見学会 12 月 8 日 9 時～13 時
 - ・PR センター概要説明、館内見学
 - ・ウラン濃縮工場外観(バス車中からの見学)
 - ・低レベル放射性廃棄物埋設センター(展望室からの見学と展示物の説明)
 - ・L1 中深度処分調査坑(地下 100 m まで専用バスにて移動、降車し見学)

- ・再処理工場中央制御室(見学者ホールからの窓越し見学)
 - ・使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋(窓越し見学))
 - ・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(窓越し見学)
- (3) 対話会#2(意見交換会を兼ねる) 12月8日 14 時～15 時半
青森県量子科学センター会議室

2. 参加者:合計 21 名

[学 生]16 名(うち女子学生 4 名)

東工大(1 名)、早大(3 名)、日大(2 名)、東理大(1 名)、お茶の水大(1 名)、東北大(1 名)
静岡大(2 名)、福井工大(1 名)、龍谷大(1 名)、奈良高専(2 名)、近畿大(1 名)

[原文財団]1 名 長岡氏

[シニア]4 名 大塔容弘、川合将義、西郷正雄、矢野隆(敬称略)

3. 目的

日本原子力文化財団の進める「地層処分事業についての更なる理解推進活動」の一環で、関東複数大学生等が日本原燃六ヶ所施設を見学する機会を得た。SNWシニアと関東複数大学生は毎年対話会を開いているが、現物を見て、その場で対話を行なうことにより、活発な議論ができ、参加学生の見識がより深まるとの考えから、SNWシニアがその見学会に同行して対話会を行なった。

4. 対話会の内容と成果

4.1 対話会#1(事前学習会を兼ねる)

(1) 基調講演:「青森県六ヶ所村の今」大塔容弘氏

学生の六ヶ所施設見学会の事前学習会を兼ねており、日本原燃に長く在籍し施設の詳細はもとより、その歴史も詳しい大塔シニアより、原燃サイクル施設の立地までの経緯、周辺の社会環境などを含む幅広い講義がなされ、聴講学生から、“六ヶ所の歴史が分かる良い講義であった”などの満足いく感想が得られた。

(2) 対話会#1

廃棄物処分施設と再処理施設の見学を控えていること、原子力に関する知識のない文系学生も参加していること等から、学生幹事の提案に基づき「放射性廃棄物と再処理についてどのように思うか」との広いテーマで対話が行なわれた。対話は 4 グループに分かれ、4 人のシニアも各グループに一人ずつ同席した。

4.2 対話会#2(意見交換会を兼ねる)

対話テーマとグループ分けは対話会#1と同じで進められた。ただし、見学前の対話会#1では学生の意見をよく聞くという方針から、シニアは聞き役に徹したが、見学会後の対話会#2では、見学体験を踏まえた具体的な議論のため、シニアも積極的に議論に参加した。

学生自身の見学会前と後の見識の変化に関しては、PR 館や中深度処分調査坑等の見学を踏まえて理解が深まったという意見も多く聞かれ、見学会と経験豊かなシニアを交えた討論を行なうことの良い効果が現れたと考えている。

4.3 対話会の成果

対話会#1,#2 の成果を Gr 毎に示す。

(1) Gr-1; 学生4名(文系学生2名、理系学生2名)、シニア 大塔容弘

文系男子は、原子力に対する知識が無いがゆえに、原子力に対する危険さを感じていたが、現場を見て、学び、また再処理施設の技術対応を聞いて、これなら大丈夫かなとの印象を持った。原子燃料サイクル政策を前に進めて欲しい。そして積極的な PR 活動を行って欲しい。

理系男子は、自分は原子力を専攻しているので原子力に対する反対派ではないが、この視察に参加する前は再処理技術に関して不透明な部分があったが、安全性に対する技術対応を知り安心した次第である。一方で、一筋縄では行かない技術の複雑さを感じたのも実態である。

理系女子は、学ばば学ぶ程原子力の難しさが解り、本当に進める必要があるのか疑問を感じることもある。自分は原子燃料サイクル研究に従事しているが、今回の視察を通じて本物に出会えたとの印象を得た。また、色々な分野の学生に出会え、意見交換ができたのは良かった。

文系男子は、今回の視察を通じて、この分野の知識の無さを感じ、そして、正直なところ、これほどまでにお金を掛けなければならない原子力が本当に必要であると言えるのかと思った。



(2) Gr-2; 学生4名(理系学生4名)、シニア 西郷正雄

次の手順で、対話会を進めた。

対話会#1

まず自己紹介。続いて質問・話したいことについて付箋を使って作成・確認した。次に「放射性廃棄物の正しいリスクが認識されないのは、なぜか? どう対応するか。」のテーマに絞り込んで、意見交換を行った。その結果、原因は次の2点に分かれることで同意し、それらについて意見交換して議論内容をまとめ、模造紙に記載した。

<原因>

① メディア、報道、SNS によること

- 「放射性廃棄物は、危険である」といったことのみの偏った報道。
- SNS などでは、ほとんど話題に出ない。関心がないことには、目を向けない。

② 教育が不足していること

- 学校では、ほとんど習わない。
- 原子力を考える時間、場が少ない。
- 原子力を話題にする環境ではない。むしろ、しずらい環境。

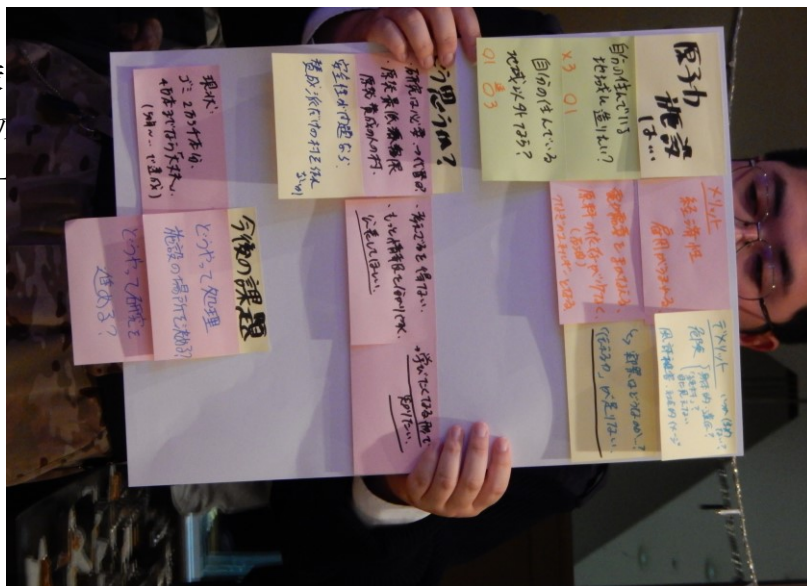
<方策>

① メディア、報道、SNS に対して

- 定期的な正しい報道。
- 有識者による教育普及。

② 教育が不足していることに対して

- 小中高で教育する。
身につくようにする対策
科目に取り入れる、親の
のため PTA にアプロー
➤ 勉強できる場を設ける。



対話会#2

見学会を終えたことにより、放射性廃棄物の対処方法や原子力の安全性に関する正しい理解のためには見学が重要だといったことが中心的な話題となり、意見交換を行った。

- 見学することにより、原子力にまつわる認識は大幅に変化する。
- 見学することにより、原子力の安全性についてハード的に極めて厳しい対策を講じていることかを確かめられるので、安心度が増す。
- 今回は休日のため、多くの従業員の仕事への取り組み姿勢を見ることはできなかったが、案内のガイドさんや再処理で働いている一部従業員の誠実な勤務態度を見ることで、彼らに安心して任してよいのではないかと安心度を高めることができる。
- ただ、核テロ対策のため非公開の施設などがあるのは残念である。

その他、我々が見学した時の高揚感をいつまでも持続させるのには何をするのが良いのか、また、今回多くの方々に原子力についての正しい認識を広げるための活動の大事さを認識したので、そのための方策について意見交換した。

(3) Gr-3; 学生 4 名 (理系学生 3 名、文系学生 1 名)、オブザーバー 長岡氏 (原文財団)、
シニア 川合将義

対話会#1

原子力専攻の早大生をファシリテータとして実施。先ず、各自がポストイット1枚に1件ずつ対話したいテーマを書き、自己紹介がてらテーマを挙げた。その結果、関心が高い「原子力施設はどうなっている」というテーマが選ばれた。今回の対話における共通テーマである「放射性廃棄物と再処理についてどのように思うか」に匹敵するものだが、この対話会でシニアは意見を挟まない約束のため静観した。

先ずは、原子力施設建設のメリット、デメリットが挙げられ、自分の地元建設への賛否は1対3になった。それから“福島での事故以前、原発は絶対に事故を起こさないと言っていたのに、とんでもない事故が起きた”との意見が出ると、“再稼働しているが大丈夫かな?”、“政府や電力は安全だと言うけど専門家も何も言わないのは、なぜ?”、次いで、風評被害の意見、放射線の被ばくへの不安、放射線や原子力についての説明がわかりにくいという不満から、ついに関電役員による金品受け取りの話に及んだ。このためオブザーバーの長岡氏が議論を共通テーマに戻すべく、エネルギー確保のための原子力の必要性および核燃料サイクルでの再処理と廃棄物処理施設についての要点を説明し、議論が修正されて以下のようにまとまった。

原子力施設については電力需要を賄って燃料が少なく済み、つなぎとしてならメリットが理解された。日本での高レベル放射性廃棄物の処分には、さほど大きな面積を取らないことが理解され、放射性廃棄物や再処理の研究は必要とされた。それらの施設は原発賛成の村に建設したらとか、賛成派が多数の村作りができないかという意見も出た。こうした策を進めるためにも情報はもっととわかりやすくすべきであるという意見とともに、処理施設の決定や研究の内容や進め方への疑問が述べられた。



対話会#2

対話会#1 同様に早大生のファシリテータにより感想を中心に進められた。施設見学とシニアとの対話により、安全への強い取り組み状況が理解できた旨の感想が多く出された。これまで知識が不足していて、マスコミの記事を信じていたがその偏りのこと、現場の人の熱意がわかり、原子力の必要性も理解できたとの意見が出された。さらに、次の様な種々の意見が出された。

- ・他の多くの人と交流できて有意義だった。
- ・伝えることの重要さと難しさを知った。
- ・ネットなどで広く伝えることが重要だが、専門用語が多くあるので、わかりやすく伝える必要がある。特に数値については実感がわからない。
- ・風評被害も無知から来ている。
- ・学ぶ機会を多くする仕組みが必要。対話会やグループ学習もその一つ。
- ・原子力については、小学校など、もっと若いうちから学んだ方が良い。
- ・国も各省庁が情報を共有して、一体感を持って取り組む必要がある。

(4) Gr-4; 学生 4 名 (理系学生4名)、シニア 矢野隆

対話会#1

原子力専攻の東北大生のファシリテータにより進められた。今回の対話における共通テーマである「放射性廃棄物と再処理についてどのように思うか」に関し、自己紹介がてら学生同士で意見を述べあった。その中には、放射性廃棄物のネガティブな話題が多いがポジティブな有効利用の話題はないのか、地層処分に関する科学的特性マップを知っているか、等の質問に似た意見も述べられた。一連の会話により、一般学生は NUMO の地層処分に関する活動状況を知らないこと、一方、高レベル放射性廃棄物が必ずしも価値のないものではなく、何らかの有用性を見つけようと考えていることが分かった。

次いで、高レベル放射性廃棄物の最終処分場が決まらないことに関する議論に移り、その原因として、一般人の認識の低さや高レベル廃棄物がどういう状態で処分されるかを知らないことなどが挙げられた。当方からも、自分の問題として考えるべきだとアドバイスした。

対話会#2

対話会#1 同様に東北大生のファシリテータを中心に、感想主体の議論が進められた。施設見学と対話に関しては、経験豊かな人の説明を聞きながら見学できたので理解が進み良かった、また、見学したい/聞きたいことをほぼ聞けたなど、満足度の高い感想が述べられた。

一方、この見学会・対話の前後で考え方の変化はあったか？との質問に対しては、非原子系の学生は“ゼロから学べて視野が開けた”との発言があったが、原子力系学生は概ね“変化はない”との回答であった。



5. 日本原燃六ヶ所施設の学生見学会

5.1 見学ルート

PR センター会議室で原子燃料サイクル施設の概要説明を受けた後、PR センター内の模型や展示物を見ながら一連の説明を受けた。初めて見学した学生からは、これらをじっくり見たかった、PR センター内での時間がもっと欲しかったなどの感想も聞かれた。

次に、バスに乗り換えたままウラン濃縮工場の外観を見学した後、低レベル放射性廃棄物埋設センターでは展望台からの眺望と展示パネルによる説明を受けた。既に、1号埋設地と2号埋設地に200 ㍓のドラム缶で約 30 万本の低レベル放射性廃棄物が埋設されている。1号埋設地には濃縮廃液、使用済樹脂などをセメント等で固形化した均一固化体が、2号埋設地には圧縮処理され、セメント系充填材で固形化された金属類やフィルター類の充填固化体が、それぞれ埋設されている。現在事業許可取得済の埋設容量は 40 万本であり、その3/4が埋設済ということになる。ただし、最終的には 300 万本の埋設規模があり、それに対しては約 1 割の使用割合に過ぎない。このあと専用バスに乗り換えて L1 中深度処分調査坑を見学したが、これについては次項に別途記載する。

その後、再処理工場中央制御室、使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋内、および高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター内を、それぞれガラス窓越しに見学した。窓越しに中央制御室の柱が大変太いことが見て取れたが、これは飛来物防護のために屋上、側壁などの外壁コンクリートを厚くしており、その重量を支えるためであるとのこと、原子力発電所の中央制御室との違いを感じた。高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターでは、海外からの返還固化体が一時保管された建屋を見学した。同センターは再処理工場と同じ周辺防護区域内にあり、再処理工場・使用済燃料受入貯蔵施設に引き続き、見学した。高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)が保管されている空間の上階の貯蔵ピットエリアをガラス窓越しに見た。その床下にはチャンネル毎にガラス固化体が9体積み重ねられ、自然換気冷却されているとのことである。使用済燃料の再処理に伴うガラス固化体の発生割合は、ウラン燃料1トン(BWR 燃料集合体6体)に対し約1体のガラス固化体が生まれるとのことである。

5.2 L1中深度処分調査坑

低レベル放射性廃棄物のうち、放射能濃度の極めて低いものや比較的低いものは六ヶ所村の低レベル放射性廃棄物埋設センター内の浅い地中に、厳重に管理された状態で順次埋設処分されている。一方、同じ低レベル放射性廃棄物の区分であるものの、炉内構造物などの放射能濃度の比較的高いものについては今後、地中 100 ㍎程度の中深度の地層に埋設処分される計画であり、現在、地質、地下水、地盤に関する詳しい情報を得るための調査坑や施設の安定性を検討するための調査空洞が掘削され、現在研究中である。

坑内専用バスで坑道を下り、深さ約 100 ㍎にある大きな調査空洞に到着した。その空洞は幅と高さがそれぞれ20㍎弱、奥行き数十㍎の大きな地下空間であり、地質観察や岩盤の変形を抑える構造物にかかる力の測定などの調査を行うとのことである。このような深い地下で、放射性廃棄物をかくも厳重かつ丁寧に処分するための大掛かりな調査が行われていることにいたく感心した。

原子力規制庁の資料*によると、中深度処分対象の廃棄物の処分に関しては下記要求事項が課されている。

*「中深度処分に係る規制基準の検討状況について」<https://www2.nsr.go.jp/data/000258864.pdf>

<中深度処分に関する要求事項>

中深度処分対象の廃棄物は、適切な処分が行われなければ数万年を超える長期にわたり人への影響が生じる可能性がある。この間、放射性物質を生活環境から離隔するために、

- ◆火山活動、断層活動の著しい影響を受ける場所を避けることを要求。
- ◆人の活動が及ぶ可能性を低減するために、10 万年後であっても 70 ㍎以深となる場所であること、有用な地下資源がない場所であることを要求。法律によって処分場が設置された場所における特定行為を禁止。
- ◆放射性物質の生活環境への放出が低減される人工バリア、天然バリアを要求。

放射線防護基準として、代表的個人に対して線量拘束値 0.3mSv/y を超えないこと、及び放射性物質の生活環境への放出が合理的に考えられる範囲で可能な限り小さくなる処分システムを設計するプロセスを示すことを要求。

6. シニア感想

[大塔シニア]

ニュースや SNS で情報は得られるが、そのまま受け取るのではなく、その情報の背景を調べる必要性を感じたことは良い経験となった、と多くの学生達が話していたが、正に今回の視察の成果の一つと言えるのではないか。そのような行為を今後務めるよう期待したい。

L1 中深度処分調査坑で深度 100 ㍎の岩層に初めて触れて感激していた多くの学生を見て、今回の視察目的が十分達せられたと感じた。

[川合シニア]

対話会#1 では、シニアが一切口を挟まないということ、そして基調講演と対話の共通テーマがマッチしていなかったのも、どうなることかと危惧したが、学生は原子力について日頃疑問に思っていることと意見を伸び伸びと言えたようで、活発に意見交換ができたようだ。特に、彼らが口にした原子力の安全性への不信感は、世間一般もそう思っているだろうから、安全教育は、より積極的にもっと分かりやすくする必要性を感じた。

今回、原子力に対して消極的だった人も、学生同士の説明を通じて原子力の特徴と必要性を理解できただろうし、施設見学では説明者の熱意と現場の技術の確かさを感じて、気持ちが好転したように感じた。特に夕食会の後での同世代同士の懇親会での説明は、その説明者が多少知識不足でもシニアの説明により受け入れられたように思われた。

対話会#2 でも積極的に意見表明があった。但し、時間不足で今回学んだことの確認と感想が主体になって、十分な対話ができなかったことは残念である。彼らが、今後もこうした対話会に出て知識をつけて身の回りの人との対話会を開き、リーダーを担ってくれることを期待したい。また、彼らのためにも、もっと分かりやすい資料を作ることも我々の任務であろう。

[西郷シニア]

関東複数大学の見学会と対話会への参加は今回が初めてである。どのような学生が集まっているのか、期待に胸を膨らませた。私のグループは、修士 2 年生のファシリテータと、修士 1 年と学部 4 年生の 4 名である。彼らに、今回のテーマについて、何か質問したいことがあるかと尋ねたところ、修士の学生たちは、てきぱきと話すが、学部生は、原子力、特に放射性廃棄物や再処理などの専門的なことは、ほとんど知識として持ち合わせていないために、この度の講演だけでは、何を質問して良いかが、浮かばないとのことであった。そこで、今回のテーマに直接関わらなくて良いので、「何が気になっているか」を話してもらったところ、我々は「放射性廃棄物は、危険である」とのイメージを持つが、それはなぜなのかを相談したいと、またそのことを解決するには、何をすれば良いかを意見交換したいということとなった。

ファシリテータは、このような意見をくみ取って、テーマを「放射性廃棄物の正しいリスクが認識されないのは、なぜか? どう対応するか。」と整理し、その後、意見交換することとなった。このようにしてテーマを設定したこともあり、その後の対話は、みんな公平に意見を出すこととなり、スムーズに会話が進んだ。

そこで、私として感じたことは、最近の講演では、素人にとってはかなり専門的な内容が多くなっているように感じられる。我々シニアにとっては、新しい知識を吸収できて有難いことであるが、学生にとっては、難しすぎるのではないかと懸念される。

学生たちが、原子力専攻の学生であれば良いが、そうでなければ説明される言葉にも、私たちには常識であるかもしれないが、彼らには専門用語として入り込むために、理解するのに時間がかかり、講師の説明についていけないと思う。今回の講演においても、学部生にとっては、やはり難しかったようである。

シニアは、常に参加する学生が原子力についてどの程度の知識を持ち合わせているかを、最初に確認して、対話に臨まなければならないことを認識させられた次第である。そして、学生たちが、対話会に参加したことにより、少しでも原子力について理解を深め、実りある対話会であったと感じとって、帰宅して貰いたいものと思う。

[矢野シニア]

今回初めて、関東複数大対話会世話役として参加した。参加学生は原子力についての日頃の意見を伸び伸びと言えたようで、活発な意見交換がなされた。また、原子力に対して消極的だった学生も、学生同士の説明・議論を通じて原子力の特徴と必要性の理解が進んだように思う。施設見学では説明者の熱意と現場の技術の確かさから、考えが好転した学生もいた。

六ヶ所施設の見学に関しては、PR センター、低レベル埋設地、再処理中央制御室など、初めての参加学生からは、もっとゆっくり見学したかった等の意見もでるくらい貴重な体験が得られたようだ。L1 中深度処分調査坑の見学に関しては、殆ど全ての学生にとって初めての体験であり、また私にとっても 2 度目の貴重な機会であったことから、地表から 100 メートルの深さにある現場で詳細な技術説明を受けて、より深い理解ができ、大変良い経験となった。

今回の参加学生は、原子力学会 学生連絡会からのネット公募で募ったため、関東以外に静岡、福井、京都、奈良、大阪など広い地域からの参加があった。ネット公募を務めた学生連絡会岡村副会長等の尽力に感謝します。見学会の事前準備などで日本原子力文化財団の有馬様や川俣様に大変お世話になり、また見学会に同行された長岡様に現地での種々適切な対応をいただいた。日本原燃の皆様には休日の見学対応を戴いた。これらの方々に篤く感謝申し上げます。

私は関東複数大対話会の世話役として、SNW 内のほか、学生連絡会、原文財団、日本原燃等との折衝に当たった。日本原燃との実質的な折衝は大塔シニアにてなされ、L1 中深度処分調査坑を含む日本原燃施設の休日の見学会が実現した。また、今回の対話会は特殊なケースであるため、原子力学会に対しても会計担当の西郷シニアの勧めに応じて事前申請を行い、学会から早めの事前承認を得ることができた。さらにご多忙の川合シニアの参加も得て、放射線を分かり易く説明できる陣容が整った。参加シニアの皆様に感謝申し上げます。

7. アンケート集計結果

関東複数大対話会 2019 イン青森県六ヶ所村 事後アンケートまとめ (矢野隆)

学生参加者 16 名 (アンケート回収数 16)

性 別 : 男性(12)、女性(4)

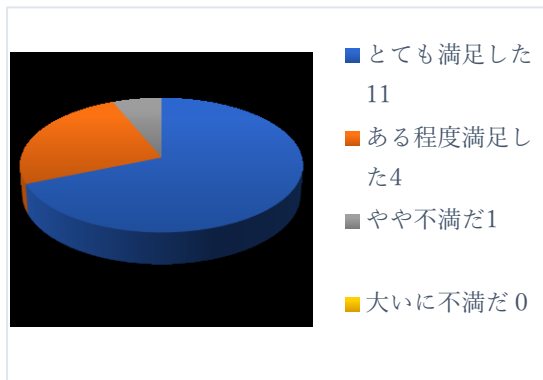
学 年 : 博士1年(1)、修士2年(3)、同1年(1)、学部4年(5)、同3年(2)、同2年(2)、
高専5年(2)

専 攻 : 理系原子力(7)、理系非原子力(6)、文系(2)、記載なし(1)

希望進路: 就職[電力(3)、その他(3)]、進学(7)、未定(1)、記載なし(2)

()内の数字は該当者数を示す。

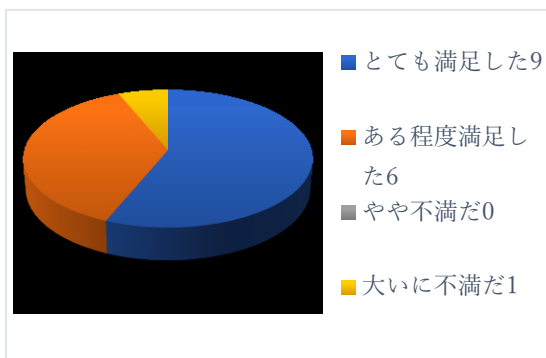
(1) 講演の内容は満足いくものでしたか？その理由は？



- ・六ヶ所村の歴史を知る良い機会だった
- ・六ヶ所村に決まった時代背景を知ることができた
- ・再処理の仕組み等学習できた
- ・原子力への理解が深まった
- ・専攻外の話が聞けた
- ・もう少し長く聞きたかった
- ・まず、放射線の解説を行なうべきだ

注) 丁寧な言葉での回答が多かったが、ここでは「である」調で記載する。以下同様。

(2) 対話の内容は満足いくものでしたか？その理由は？



- ・良い勉強機会であった
- ・気持ちや考え方の変化を共有できた
- ・違う専門の学生とも話ができて満足した
- ・事前学習での疑問点を見たり聞いたりして学ぶことができた
- ・討論時間等もう少し工夫できそうだ
- ・核融合関係の量子科学センターも訪れたが、その人との話ができず、残念だ。

(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？



- ・見学会を含め色々な人の話を聞く機会に恵まれた
- ・再処理の内容を改めて知ることができた
- ・質問などに丁寧・親身に答えてもらえた
- ・議論をするには時間が少なすぎた
- ・科学技術の面でもう少し詳しく聞きたかった
- ・こちらの準備が十分ではなかった
- ・安全の疑問残るが、原子力発電の可能性にもっと注目されるべきだ

・トンネル内等で、質問内容が聞き取れず、追加の説明・議内容が理解できなかった(説明はマイクで行なわれるが、見学者の質問は口頭のため、少し離れた見学者は補足説明の内容が理解しにくい)

(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？(複数回答も可)

- ① 新しい知見が得られた。(回答数 14 件、約 53%)
- ② マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。(回答数 4 件、約 15%)
- ③ 自分の将来の進路の参考になった。(回答数 3 件、約 12%)
- ④ 教育指導の参考になった。(回答数 3 件、約 12%)
- ⑤ 特に新しい知見は得られなかった。(回答数 0 件)
- ⑥ その他 (回答数 2 件、約 8%)

その他の回答例: 今後の原子力界の発展のための手がかりを聞くことができた。
伝える力。

(5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

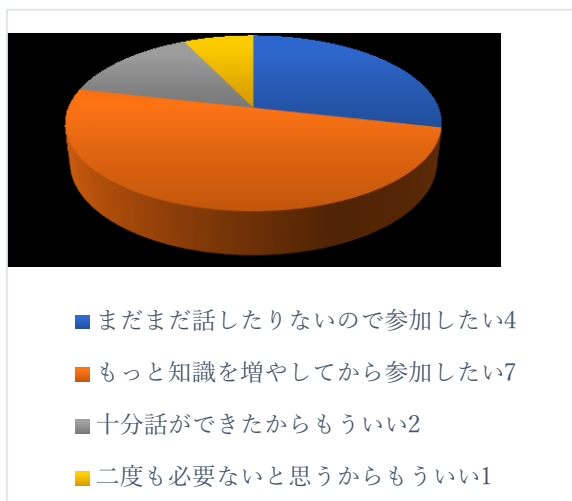


- ・圧倒的な経験差のあるシニアの話に、学生は耳を傾ける必要がある。考え方や経験の違う様々な意見が聞ける。
- ・シニアの知見と学生の意見の共有が大切だ。
- ・講演や学生討論では分からないことも聞ける。
- ・意見の違いについて考えることが大事だ。
- ・知識の乏しい学生にも熱く教えてくれる。とても大切な裸の付き合いといえる。

(回答なし: 1 件)

- ・シニアが語るだけではなく、学生からの方向性(語りかけ)が必要だ。
- ・コミュニケーションを取るのが難しい。

(6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？



(回答なし、別回答が各 1 件)

別回答: 必要に応じてまた、お話を伺いたい。

(7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？(複数回答も可)

- ① 放射線、放射能はやはり怖い。 回答数 4 件、約 15%)
- ② 一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。 (回答数 7 件、約 27%)
- ③ 一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた。
(回答数 7 件、約 27%)
- ④ 放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。 (回答数 8 件、約 31%)

(8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力(2030 年に発電電力量の 20～22%)とし、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？(複数回答も可)

- ① 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。 (回答数 6 件、約 35%)
- ② 原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。
(回答数 6 件、約 35%)
- ③ 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。
(回答数 2 件、約 12%)
- ④ 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。 (回答数 1 件、約 6%)
- ⑤ その他 (回答数 2 件、約 12%)

その他の回答例：

- ・新しい原子力の用途を模索すべきだ。
- ・科学的魅力を感じるが、本当に必要かを考えたい。自分の夢や興味を追求したい一方、社会全体を考えたい。

理由

- ・ベースロード電源として原子力の確保は必要だ。
- ・原子力は撤退すべきではない。
- ・原発なくすのはダメだ。良い分散を考えるべきだ。
- ・再エネは安定供給に向かない。核融合ができるまで原発が必要だ。
- ・新規発電所を作れない以上、旧型の発電所を使うことは止めたほうが良いと考える。

(9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・放射性廃棄物処分と再処理について、この見学会・対話会前とは自分の意見が大きく変わった。そのことについてよく学び、よく見ることができたので、大変良かった。
- ・再処理の知識等、自分が持っていなかったものが得られてとても良かった。
- ・討論会(対話会)だけでなく、見学や食事の時間でも SNW シニアと会話できたことがとても良かった。
- ・見学会以外でも多くの学生・シニアの方と意見交換ができたので、大変有意義であった。
- ・二日間にわたり様々なことを教えていただき、ありがとうございます。
- ・幅広い層の学生との対話は大変参考になったが、時間はゆとりを持った方が良いと思う。
- ・最高のイベントでした。SNW からの多くの貢献に感謝します。来年も楽しみです。

以上